

4-3

しぜん さいがい

自然災害からくらしを守る

つかむ

(1) 自然災害が起きたら

ゆきさんたちは、写真を見て自然災害について気づいたことを話し合いました。

千葉県内では、どのような自然災害が起きているのでしょうか。



ひょうによる被害
あびこ
2000年(平成12年) (我孫子市)



こう水による被害
1991年(平成3年) (市川市)



たつまさ
竜巻による被害
もぼら
1990年(平成2年) (茂原市)

千葉県のいろいろなところで、自然災害が起きているね。



ほんらん
大雨による川の氾濫
ふつつ
1989年(平成元年) (富津市)



大雪による交通被害
2014年(平成26年) (八千代市)

雨や雪、竜巻…
自然災害にはたくさん
の種類がある
んだね。



地震による津波被害
2011年(平成23年) (旭市)

※かんぼの宿周辺

たてもの
家や建物がこわれて
しまっているよ。他に
はどんな被害があった
のかな。



自然災害が起きたら、
ぼくたちのくらしはどう
なってしまうのかな。



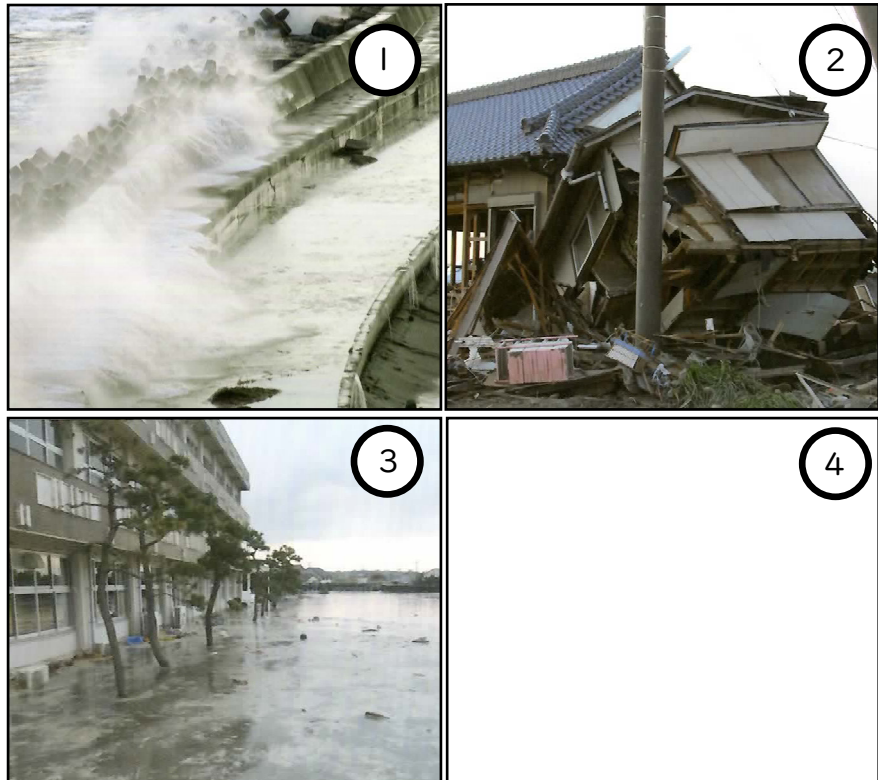
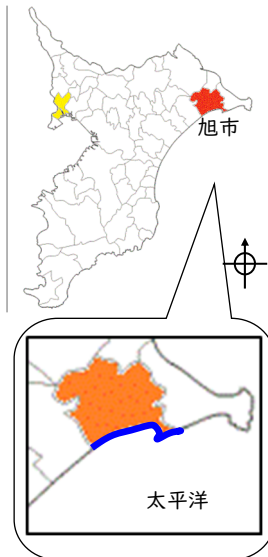
集中豪雨による被害
1970年(昭和45年) (大多喜町)

新しい地図記号「自然災害伝承碑」
過去の自然災害の記録を刻んだ
各地の石碑の場所が一目で分かるように、平成31年に新しく作られました。県内にも数か所、保存されています。

江戸時代の津波の被害を記録した石碑 (一宮町)

つかむ

じしん つなみ
地震と津波によっ
て、どのような被害が
あったのでしょうか。



2011年(平成23年)3月11日, 宮城県沖を震源とする M 9.0の東日本大震災が発生し, 東北地方を中心に大きな被害をもたらしました。

この地震で発生した津波は, 千葉県旭市の沿岸にも, 到達しました。(最高7.6mの高さ)

これまでに旭市に被害をもたらした津波

年	災害名
1703	元禄大地震による津波
1877	チリ地震による津波
1960	チリ地震による津波

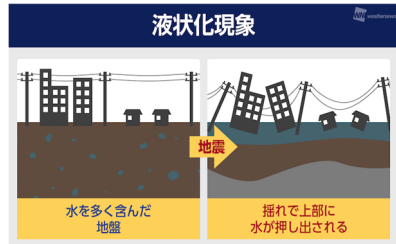




被害の様子

- 死者——— 14名
- 行方不明者——— 2名
- 住家全壊——— 336世帯
- 大規模半壊——— 509世帯
- 床上浸水——— 677世帯
- 液状化現象——— 768世帯

津波や液状化現象の被害を受けた地域（番号は、左ページの写真の場所。）
 ・ ・ ・ 津波被害 ・ ・ ・ 液状化被害



地震発生当時の様子（当時3年生だった女の子の作文）

なんの前ぶれもなく、「グラグラ ドーン」という感じで起きた地震。学校で練習した通り、机の下に身を隠すことができたのですが、弟は外に向かって走って出て行きました。追いかけると、また立ってられないくらいの地震があり、どうしていいかわからなくなりました。家には誰もいないし、停電が続いていたので懐中電灯と乾電池を買に行きました。みんな同じものを買いに来て、レジも使えず、30分くらい並んでやっと買えました。コンビニには品物が半分以上なくなっていて、普通の生活が送れない予感がしました。

学校も被害を受けたから、わたしたちみたいに学校へ行くこともできないね。



生活に必要なものも、手に入らなかったみたいだね。地震の後、はどうやって過ごしていたのかな。



旭市では、地震の被害に対して、だれがどのように対応したのでしょうか。

さいがい
災害が起きた時、どのような取り組みが行われたのでしょうか。

きょうてい
災害時協定

自然災害などが起きたとき、近くの市や県や会社では、おたがいに生活に必要なものを届けたり、避難所として助け合うしくみを作っています。

【旭市の場合】

- ・ちばみどり
農業協同組合
(ガソリン)
- ・(株)伊藤園
(のみもの・水)
- ・セブンイレブン
(日用品など)



警察や消防などによる
ゆくえふめい
行方不明者のそうさく



ライトの明かりをたよりに炊き出しがおこなわれた



支えん物資がとどく



教室が避難場所に

あさひ

じしん

旭市では、地震発生から約2時間後

しよくいん

に地域の人や市の職員が中心になって学

ひなんじよ かいせつ

校や公民館などに避難所を開設しまし

た。さらにその3時間後には災害時協定

を結んでいるお店などから食りょう品が

とど しょうぼうだん

届いたり、消防団がバケツで水をくん

で、トイレを

作ったりしまし

た。



がれきの片づけを行う消防団員

また、震災の影響で水を送るポンプも動かなくなったので、自衛隊も協力して、給水車で水を配ったり、給水所を作ったりしました。

電気を使える時間も限られてしまったので、ふだん通りの生活を送れるまでに時間がかかりました。

ライフライン
水道や電気、ガスなどのエネルギーだけでなく、鉄道や道路などの交通機関やテレビ・ラジオ・インターネットなど、生活になくてはならないせつびのこと。



自衛隊による給水活動



ガソリンも足りなくなった

ライフラインの被害
水道…3月12日まで市内全て断水
ガス…4月19日完全復旧
電気…3月14日から計画停電

計画停電
各地で電気が足りなくなりましたので、あらかじめ電気が使えない時間を決めて電気を節約する必要があります。電気が使えないと、トイレや冷ごうこなども止まってしまうので、とてもこまりました。

災害が起きてすぐに、いろいろな人が活動をしているんだね。

テレビでボランティアの人が協力しているのを見たことがあるよ。この時もいたのかな。

災害が起きたときは、おたがいに連絡をしているのかな。

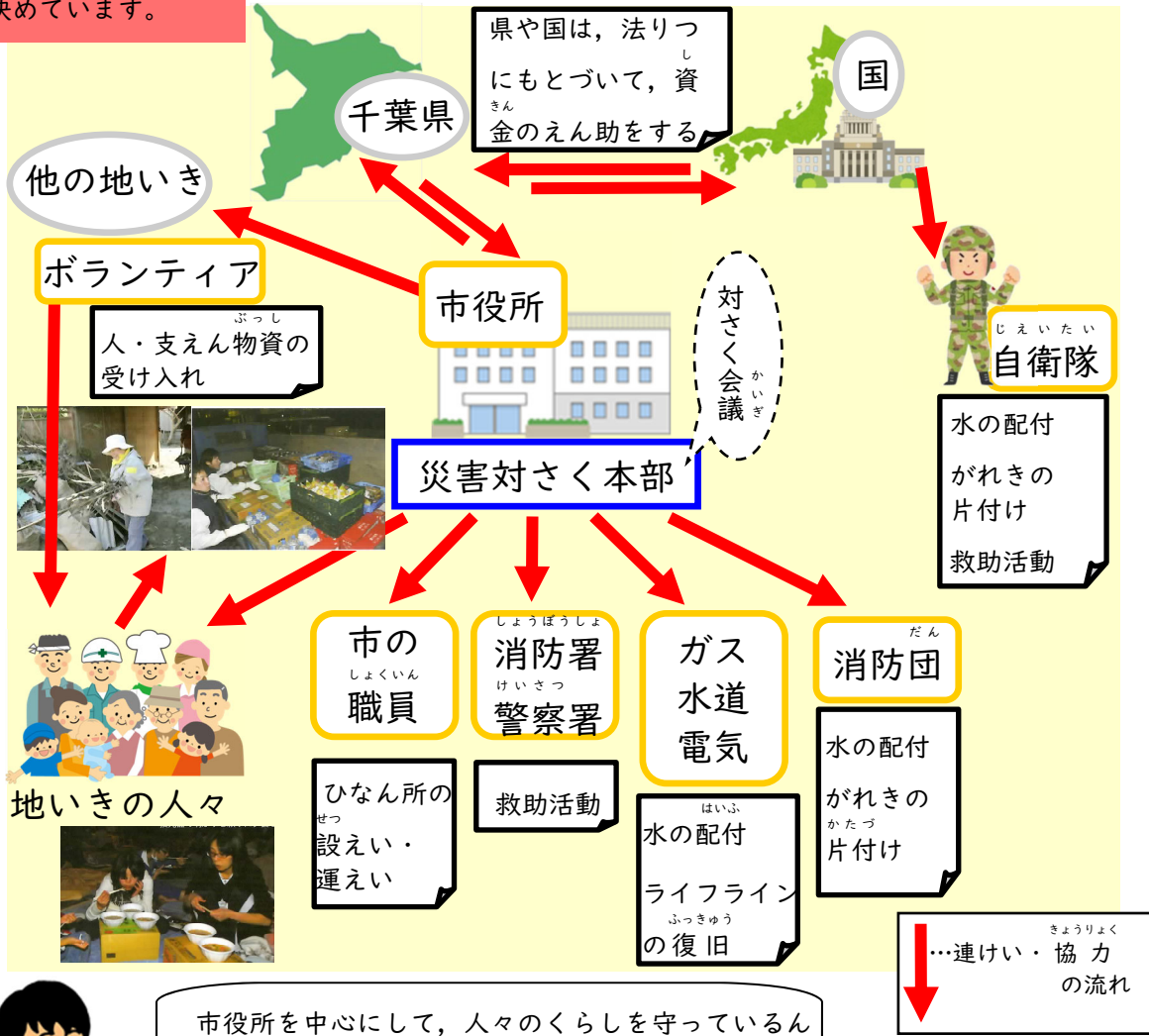
なぜこんなにもたくさんの方が力をあわせることができたのかな。

人々の関係に注目して、調べてみましょう。

しらべよう・みてみよう

ぼうさい 防災計画
 市町村では、自然災害が起きた場合に備えて、人々の暮らしを守るための行動や連らく方法などをあらかじめ決めてあります。

震災が起きたときには、旭市の防災計画にもとづいて、ひなんや救助、復こうへの取り組みが行われました。



市役所を中心にして、人々の暮らしを守っているんだね。対さく本部を作って対おうしているんだね。

大きな自然災害の場合には、千葉県や国とも協力をするんだね。みんなで助け合っているね。



旭市では、災害からくらしを守るために、市と

じゅうみん

住民が協力して備えています。



つ さい ひなん
津波の際の避難場所となる「日の出山公園」



新しく作られた津波避難タワー



旭市防災マップ
旭市津波ハザードマップ

旭市役所の人の話

公園の頂上には、500人が避難できる広さがあります。公園を利用し、身近に感じることで、日ごろから防災について考えたり、ハザードマップを活用して避難場所をたしかめたりして、いざという時に備えてほしいと思います。

旭市に住む人の話

津波の被害が大変でした。その時のことをわすれないように毎年訓練に参加しています。自分たちにできることを考えて行動することが大切だと思います。

まとめよう・つたえよう・いかそう

調べたことをもとに、自然災害が起きた時の人々の活動について、話し合ったりまとめたりしましょう。



きん急の時には、市や県、国が地いきの人と協力しているんだね。

もしも、自分の住んでいる地いきで災害が起きたらどうなるのかな。



旭市の取り組みと、市川市の取り組みをくらべて考えてみましょう。